

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実施報告書

- 1 学校名：岐阜県立岐阜商業高等学校
- 2 実施日時：2017年（平成29年）11月9日（木）
- 3 対象：岐阜県立岐阜商業高等学校 全校生徒 1,195名 保護者 約30名
- 4 派遣オリンピック：金藤理絵さん（競泳女子 200m平泳ぎ リオデジャネイロオリンピック金メダル）
- 5 授業内容：講演

平成29年11月9日（木）に、岐阜県立岐阜商業高等学校にて、リオデジャネイロオリンピックにて競泳で金メダルを獲得された金藤理絵さんに、「諦めない心」という演題でご講演いただきました。ご自身の競技生活についてお話す前に、オリンピック・パラリンピックについて生徒たちがより理解を深められるよう、「オリンピックシンボルは5大陸を表現している」ことや、「2020東京オリンピックの一松模様のマークは、オリンピックとパラリンピックで同じ数の四角形を使っており、オリンピックもパラリンピックもより平等に、より密接になってきている」などといった、オリンピックに関する知識を話していただきました。初めて耳にする知識がたくさんあり、生徒たちからは驚きの声が聞こえてきました。

金藤さんは広島県のご出身で、ご兄姉が水泳を習っていた影響で水泳を始められたそうです。高校生のときにはインターハイで優勝も経験し、大学進学後も順調に結果を残しており順風満帆でしたが、大学4年生のときに腰にヘルニアを発症し、その後は呼吸することさえも痛みが出ることもあり、まともに練習できない状態になってしまったそうです。ロンドンオリンピックの代表選考に選ばれず、もう水泳を辞めたい、辛いと思う日々が約2年も続いたそうです。何度も引退することを考えたそうですが、大学生のときからずっと金藤さんの姿を見てきたコーチからの、「自分のやりたいときだけやって辞めなくなったら勝手に辞めるのは、応援してきてくれた人達に失礼だ。自分のやりたくないという気持ちなど関係ない。とにかく続けろ」という言葉で、はっと我に返ったそうです。こんな情けない結果のままでは終われないと気持ちを入れ直し、「世界一を目指すなら世界一の練習をしなければならぬ」と高い志を抱き、27歳という年齢から大学時代よりも厳しい練習に取り組んだそうです。また、勝つことへの執着心が自分には足りていなかったと反省し、その日から毎日、練習日誌に思いを綴ったり、どんなに調子が悪いときでも良いところを見るようにしたり前向きに気持ちを切り替えるなどし、とにかく自信を持てるような練習を積み重ねてきたと話していただきました。このような努力や自分を支えてくれる多くの人々の助けもあって、リオデジャネイロオリンピックの代表に選ばれ金メダルも獲得し、世界一になるという夢を見事に実現させたそうです。

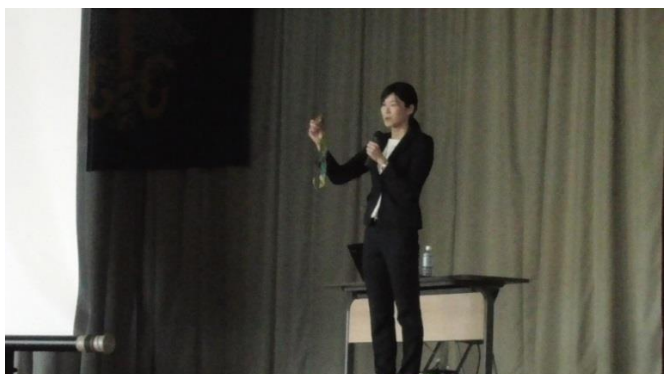
会場の生徒たちに伝えたいこととして、「考え次第で自信は自分でつくっていきける」「挑戦してみないと分からないし、一度や二度うまくいかなかったとしても継続してみないと分からない」「正解はない。自分に合うものを徹底的に考えることが大切」といったことを話していただきました。最後に、会場にいる生徒たちへ、夢や目標は叶えることができればもちろん良いけれど、実現可能な夢だけでなく小さい頃に抱いたような、もっと大きな夢を持ってほしい。夢を持つだけで、心が折れそうになったときに頑張ることができるので、高校生のみな

さんも、これから先に、つまづくことがあったら、自身の抱いた夢に向かって頑張ってくださいと、激励の言葉を送っていただきました。代表生徒から、「今日の金藤さんのご講演は、まさに本校校訓の“不撓不屈‘の精神そのものであり、金藤さんの姿を倣って今後の学校生活を有意義に送っていきたい」とお礼の言葉があり、多くの生徒たちの心に残る大変貴重な講演であったことが伺えました。

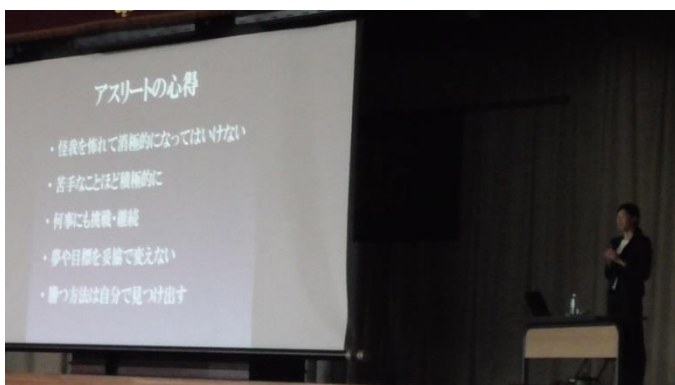
6 授業の様子



生徒たちに質問をしながら、オリンピック・パラリンピックに関する知識を披露していただきました。



金藤さんの話を、メモをとりながら熱心に聞き入る生徒の姿も多く見られ、多くの生徒たちが自身の人生の糧として生かそうとしている様子が伺えました。



スポーツに励んでいる生徒の多い学校での講演だったため、ご自身の経験から、強くなるためのアスリートの心得を話していただきました。金藤さんの経験してきた、怪我や結果が出せない苦悩や葛藤は、多くの生徒たちも共感する部分があったようで、その苦悩を乗り越え長い年月をかけて金メダルを獲得された話は、生徒たちに希望を与えてくれたように伺えました。